



渡辺 次男 議員

国勢調査の確定値では、2020年10月1日時点の本村の人口は2824人で5年前の前回調査から3.3%減少した。また、第2期鳴沢村まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの将来人口展望値2850人より減少が進んでいる。

この現状をどのように評価しているか。総合戦略の目標達成に向け、今後どのように取り組むか。

●企画課長 渡邊 英博

鳴沢村では、人口減少に歯止めをかけ、将来にわたり活力あるまちづくりを推進していくため「鳴沢村まち・ひと・しごと創生人口ビジョン/総合戦略」を策定している。

第1期計画は平成27年度から令和元年度まで各事業を実施してきた。第1期計画の終了に伴い、人口動向、村民ニーズ等の現状把握をした上で、国の新たな視点も取り込み第2期計画を令和2年度から6年度まで策定し、持続可能な地域社会の形成を推進している。

Q 本村の人口減少対策は

A 実情を検証して各種施策を推進

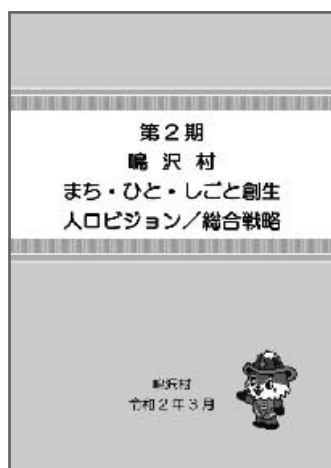
国勢調査の確定値では、2015年の人口2921人から人数で97人、率で3.3%減少した。

一方、住民基本台帳でも、2020年の人口が3142人で2015年の3165人から人数は23人、率で0.7%の減少となっていて、人口が減少していることは確かである。

令和6年度の目標値は、出生数が22人、年間純移動数が12人、移住・定住助成制度の活用件数3件となっている。出生数は、平成27年度から平成30年度の4ヶ年平均は24人だったが、令和元年度と令和2年度の平均は14人と極端に少なくなった。令和3年度は20人を見込んでおり少しずつ回復傾向にある。また、移住支援金の交付は今年度1件見込んでいる。

企業誘致については、企業側から数件の問い合わせがあり、1件はドローンを活用した現地調査まで行ったが誘致までには至らなかった。今後も山梨県と協力して、企業向け説明会等に参加し企業誘致を推進して行く。

第2期計画3年目の来年度は、実情を踏まえた検証と見直しを行い、各種施策を推進していく中で、全庁を挙げて人口対策に取り組む。



鳴沢村まち・ひと・しごと人口ビジョン/総合戦略

Q 運転免許返納後の 高齢者支援は

A 新たな外出支援事業を検討

運転免許証を自主返納した方に対して、村営の高齢者福祉バスを運行して、買物、公共医療機関等の受診などができれば、免許を自主返納したいという高齢者がかなりいる。

近くの医療受診や買物など1日当たり2往復程度運行すれば、高齢者の自主免許返納者も安心して生活できるのではないかと思うが、村の考えは。

●福祉保健課長 小林 昭博

小型バスを運行し、医療機関や買物などに活用してはいかかとのことだが、村内の公共交通は、通常の生活路線バスと本栖湖から河口湖への周遊バスのみで、事業者に対して村で赤字分の補填を行い、公共交通を維持している状況である。

鳴沢村は、地域柄、身内をお願いする傾向が強く、運行した場合の利用が見込めないと考えている。また、運転手の確保や予約の問題、自動車購入や人件費など多額の経費が必要となり、費用対効果の面からも難しいと考えられる。

当村では、免許返納後の支援策を他の市町村の事例などを参考に研究してきたが、富士河口湖町では外出支援策として、バスやタクシー代の補助



渡邊 明雄 議員

を行っている。75歳以上で運転免許を所持していない方及び75歳未満でも免許証を返納された方が、路線バス又はタクシーを利用する際に、利用料の一部を助成するもので、バスかタクシーの補助かを選択できる。

本村においても、同様の支援策が利用者のニーズやバス路線の維持といった観点からもよいのではないかと考えている。

村では現在、一般公共交通機関を利用できない虚弱な高齢者世帯などを対象とした、医療機関への外出支援サービスを行っているが、この支援サービスを見直す中で、バス定期券、タクシー補助を加え、免許返納後の外出支援事業を行いたいと考えている。この補助事業については詳細を検討し、令和4年度において予算を計上する予定で検討している。



鳴沢村外出支援車両



小林 清一 議員

消費者に人気の高い鳴沢産トウモロコシを、他の産地と識別し、高い商品価値を与えるため、商標登録を行う提案が、振興課から出ていたが、コロナの影響で停滞している。

来年の生産に間に合うよう、具体的に今後の進め方について示していただきたい。

●振興課長 木 暮 富人

耕作放棄地が増加傾向にあり、ブランド化は鳴沢村の農業において重要課題である。

現在、振興課内でブランド化に向けた計画を策定中であり、来年の春までには生産者の方にお示し

Q トウモロコシの
商標登録推進の考えは

A ブランド化の計画を春までに
生産者に提示予定

て、今後の方向性を模索していただきたいと考えている。

体制としては、村や農協が主体となって取り組むのではなく、村はスタート時点では関わるが、いずれは生産者グループが主体となって取り組んでいただきたい。

ブランド化の仕組みは、単にトウモロコシを生産し、販売するのではなく、より美味しいものを栽培するなど、努力したことが報われるような仕組みとしていきたいと考えている。

地域団体商標の取得の際、名称については、『地域の名称』と『商品の慣用名称』の組合せとすること、また一定の地理的範囲でその名称が有名であることなどが要件とされている。生産者自らが、ブランド化を必要と判断された場合には、村としても積極的に協力していく。

議会だよりモニターを募集します!

昨年度より、議会だよりの一層の充実を図るため、議会だよりについての意見や感想をお伺いする「議会だよりモニター制度」を導入し、「議会だよりモニター通信」として皆さまからいただいたご意見等を毎月掲載しております。

現在のモニターさんの任期が令和4年3月31日までとなっておりますので、新たに議会だよりモニターを募集いたします。

おもな活動内容	議会だよりを読んで意見、提案、感想等を提出（年4回） ※右ページのモニター通信をご参照ください。
任 期	選任された日から令和6年3月31日まで
対 象	鳴沢村に住所を有する満18歳以上の方
報 酬	意見等の提出1回につき1000円
申し込み方法	令和4年3月4日（金）までに、任意の様式で ①住所 ②氏名 ③電話番号を明記のうえ、郵送、FAX、メールで下記までご応募ください。 ・郵 送：〒401-0398 山梨県南都留郡鳴沢村1575番地 鳴沢村議会事務局 宛て ・FAX：85-2461 ・Eメール：gikai@vill.narusawa.lg.jp ■ お問い合わせ 議会事務局 ☎85-2311

議会だよりモニターの皆さまから、11月発行の議会だよりNo46について、次のようなご意見等をいただきました。皆さまからのご意見等を参考に、今後もよりよい議会だよりを作りたいと思います。

表紙の写真良いですね。子どもたちの元気な写真に癒されます。これからも表紙は元気な子どもたちの笑顔の写真を載せて欲しいです。

マスクで笑顔が見えませんが早く元気な笑顔が見たいものです。

(80代 男性)

「令和2年度はこんな事業が行われました!」のコーナーでは、写真を大きく取り入れ様々な事業が実施されたことがわかりやすく記載されていると思います。

広報コンクールで奨励賞受賞の記事がありましたが、これからも読みやすい議会だよりの制作をお願いいたします。

(40代 男性)

一般質問の「大規模停電時の給水について」ですが、令和3年は原因不明の停電が2時間程度あり、水道は止まらなかったがテレビ、ネット、防災無線など全く使えなかったので、災害時の対応を確実に知らせて欲しいと思いました。その点で良い質問でした。

(70代 男性)

今回の議会だよりに「令和2年度はこんな事業が行われました!」という掲載がありました。写真入りでその事業にいくら使われたか書いてあり、とてもわかりやすかったです。

防災用品の配備状況も具体的に書いてありよかったです。

(20代 男性)

村の財政が『良好』との報告事項がありました。ありがとうございます。これも村長さんをはじめ議員の皆さんのご努力のおかげだと感謝いたします。

引き続き、村の将来を考えながら健全な財政運営にご尽力いただきたいと思います。

(50代 男性)

令和2年度の事業について、村で何が行われたのか分かりやすく見ることができました。

村長さんに要望書を提出したページもありましたが、その要望書に対して村ではどのように考えているのか興味があります。議会だよりを通じて知ることができたらと思います。

(30代 女性)

「令和2年度はこんな事業が行われました!」の誌面は、黒枠でぱっと目に付き、事業内容等の報告がとてもわかりやすく、理解や把握が容易にできました。どれを見てもほっこりする事業だなあと感じました。

(60代 女性)

税財源の充実や教育充実のため国にも意見書を提出しすごいと思いました。

3ページの生活バスについて、最近高齢者の免許返納が問題になっていますが、鳴沢村は車がないと買い物や病院に行けず不便なので、今後生活バスが充実すればありがたいと思いました。

(40代 女性)

議会要望事項の 回答を受けました

12月13日に全員協議会を開催し、
村長へ提出した議会要望事項の回
答を受けました。

議会の要望事項と、執行部回答の
要旨は次のとおりです。

※内容を要約しています。

防災について

(1)防災情報を中心に防犯、子育て支援、医療機関情報、ゴミ収集、おくやみなど様々な情報を取得できる村独自のアプリを導入していただきたい。

【総務課ほか】

富士河口湖町などでは防災アプリを導入しておりますが、導入時の費用やランニングコストが高額になるため、費用対効果の観点から現時点では村独自の防災アプリの導入は考えておりません。

(2)災害等による長期間の停電に備え、家庭用自家発電機や蓄電池等の購入に対する補助金を創設していただきたい。

【総務課】

停電時はモバイルバッテリー、充電式LED照明、携帯ラジオ、ガスコンロ、石油ストーブを上手に活用することにより、応急対応は可能かと思えます。まずは基本的な防災対策を進めることが重要ですので、最重要である「自助」の啓発を進めます。

観光振興について

(1)生き生き広場にドッグランを併設したり、遊具を充実させたりするなどして、家族等で長く滞在できるように有効活用を検討していただきたい。

【総務課】

ドッグランについては事故防止・適切な施設利用のための管理が不可欠ですので、設置後の管理方法を含め検討します。遊具の充実につきましては、財政状況など勘案して検討します。

(2)溶岩スパイラル群について、看板・案内図等の周辺整備や情報発信などを強化して、観光資源としての活用を検討していただきたい。

【教育委員会・企画課】

現在は「スパイラル」について様々な見解が存在しており、貴重であるか否かも解明されていないため、観光パンフレットなどから削除しています。

このようなことから観光資源としての活用は難しいと思われま



ジラゴンノにある溶岩スパイラル

(3)八幡神社などの大田和地区の文化財等について、看板・案内図等の周辺整備や情報発信などを強化して、観光資源としての活用を検討していただきたい。

【教育委員会・企画課】

八幡神社は看板やガイドマップ等にも掲載されていますが、榛名の池、行者堂、山の神などについては、場所や観光客のニーズ等を考えると観光資源としての活用は難しいと思われま

ふるさと納税について

ふるさと納税の専門部署を創設するなどして寄附額を伸ばしている自治体があるが、本村でも態勢を強化して取り組んでいただきたい。

【企画課】

新たなふるさと納税サイトの開設や山梨県の共通返礼品である種なしピオーネ、もも、さくらんぼなどを新たに追加して寄附額を増加させたいと考えております。その上で態勢強化も検討します。

子育て支援について

(1)オンラインでの子育て相談窓口の創設など、コロナ禍に即した子育て支援を推進していただきたい。

【福祉保健課】

オンラインでの相談はメールでおこなっていますが、子育て世代がもっと気軽に相談できるLINEなどSNSの活用を検討し、行政側からの発信も行える体制を整えるなど、さらなる子育て支援の推進を図っていきます。

(2)子育てにおける母親の負担・不安を軽減させるため、子育て世代の父親向けの子育て教室等支援事業を推進していただきたい。

【福祉保健課】

父親の各種教室や検診などへの参加は少なく、具体的な子育て方法論について知らない方が多い現状もあります。

これらの状況を踏まえ、父親のみでなく、両親をはじめ子育てに関わる家族すべての方が参加しやすい子育て教室を検討し、環境づくりを行っていきます。

高齢者等支援について

今後増加が予想される高齢者等の買い物難民対策として、JAやスーパーなどと提携して、移動販売車の導入等、対策を推進していただきたい。

【福祉保健課】

社会福祉協議会では、虚弱で村が必要と認めた高齢者に対して買い物代行等を有料にて実施しています。また、民間企業でも高齢者等に対する食料品等の買い物宅配サービスが提供されており、JAなるさわでも現在検討中とのことでした。

民間企業でこのようなサービスが提供されているため、移動販売車の導入については検討していません。

農業振興について

(1)鶏糞等の堆肥の購入についても補助対象に追加していただきたい。

【振興課】

鶏糞配布は農協で検討しましたが、需要の見極めが難しいため現時点では困難であるとの結果でした。鶏糞堆肥補助については、引き続き需要の見極めや調達先の検討を続けます。

(2)被害が拡大傾向にあるアライグマについて、捕獲用の檻の基数の増強や、檻の購入に対する補助金制度の創設など、対策を強化していただきたい。

【振興課】

村では捕獲檻(箱罟)を購入して貸し出している

ですが、不足しているため購入を検討します。貸し出しについては長期間占有している場合があるため、期限を区切る等の対策を行います。

アライグマの捕獲は原則的に狩猟免許取得者が行うもので、免許を持っていない方は箱罟の使用は出来ませんので、檻の購入費補助は予定しておりません。



捕獲されたアライグマ

国道について

過去の議会要望事項への回答で「国道139号の四車線化推進を考えている」とあったが、国道沿いの無電柱化に合わせて、四車線化を推進していただきたい。

【振興課】

富士河口湖町と共同で四車線化の要望を行っておりますが、令和元年に実施した住民アンケートで「改善が最も望ましいと思うか」との問いに対し、「四車線化」が14%、「バイパス」が35.5%となっています。この結果を考慮し、将来を見据えて検討を進めていきます。

その他

(1)あおり運転などへの対策として、ドライブレコーダーの購入に対する補助金制度を創設していただきたい。

【企画課】

県内で補助金制度があるのは富士河口湖町のみで、高齢者を対象とし、運転操作誤り等の状況を把握して安全運転を支援するものとなっております。そのため、現時点では補助金制度の創設は考えておりません。

(2)未整備となっている公共施設のトイレの洋式化を迅速に推進していただきたい。

【教育委員会ほか】

公共施設トイレ洋式化につきましては、財政面・施設の状態・利用状況・要望等を総合的に判断し、逐次改修や建替を行っております。

和式のみとなっている、武道館、スポーツ広場などの5施設については、利用者からの要望等はありませんが、引き続き洋式化や建替に向け検討します。

「小さな便利」や「小さな快適」を活用

きのした まくに
木下 眞邦



防災士仲間5人と立ち上げた「鳴沢防災士会」が、本格的に始動します。と言っても、大地震や大噴火といった壊滅的な災害を想定し、その防災を行おうというわけではありません。

各自が日々の中で培ってきた「小さな便利」や「小さな快適」を整理し、それをいざという時に皆で活用しようというものです。互いの得意分野を楽しみながら集めていけ



車内に常備している防災グッズ

ば、意外と大きな力になります。

僕の場合は「日本山岳ガイド協会会員」という引き出しから、登山用具やウェアを選びました。これは過酷でもある登山時の「小さな便利」や「小さな快適」の宝庫です。いざという時に活用しない手はありません。

鳴沢村民になって30年。大好きな富士山と向き合う日々の中で、ガイドをより楽しく、そしてお客さんに無事下山してもらう為、登山用具店でインストラクター(店番)も務めています。ここで得た「小さな便利」や「小さな快適」も、皆さんのいざという時に活用していただきます。

広報常任委員推薦！ 鳴沢のおすすめ！

広報常任委員
渡辺 宗司

なるさわ活き活き広場



村民のふれあいの場の提供と健康増進を目的として、道の駅なるさわ東の緑豊かな自然の中に造られた芝生広場で、平成11年に完成しました。

村民体育祭やグラウンドゴルフ大会での利用はコロナ禍により中止が続いていますが、ウォーキングやランニング、また、親子で遊んでいるのを見かけます。

コロナ禍の今だからこそ、約24,000㎡の広大な芝生広場で思い切り体を動かし、コロナに負けない体づくりをしましょう！



総務教育厚生常任委員会より

昨年9月以降、新型コロナウイルスの新規感染者数は大幅に減少に転じていましたが、「オミクロン株」の発生を契機に12月下旬以降急激に増加傾向となっております。

1月には富士東部地域の遊興施設においてクラスターが発生するなど、県内でも感染者数が急拡大しています。

現時点で、オミクロン株はデルタ株と比較して毒性は弱く、重症化率は低いと見られていますが、感染力が非常に強いと言われております。

◆変異株でも「マスク・手洗い・うがい」といった基本的な予防策は変わりません。今後も継続していきましょう。

◆ワクチン接種後でも感染する「ブレイクスルー感染」が多く確認されております。ワクチンを接種された方も大人数での会食を控える、なるべく密集を避けるなど、感染予防に努めましょう。

なるさわ議会だよりは、ホームページでも公開しています。また、本会議の会議録も公開していますので、ぜひアクセスしてください。

